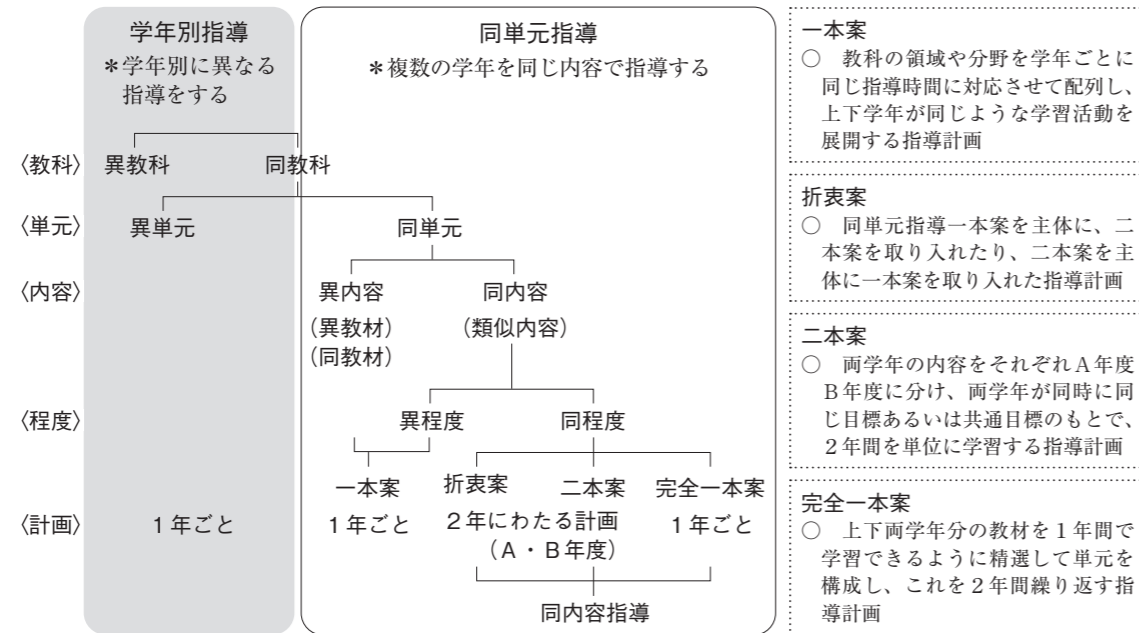


複式指導における社会科の学習指導計画

1 複式学級における指導形態の種類と特色



複式学級における指導形態は、上記のように分けられるが、大別すると、次の学年別指導と同単元指導に分けられる。

- (1) 学年別指導………学年別に異なる指導
 - ①同じ時間に、学年別に異なる教科を並行して指導する。**(異教科指導)**
 - ②同じ時間に、学年別に同じ教科をそれぞれの学年の目標や内容に即して指導する。**(同教科異単元指導)**
- (2) 同単元指導………複数学年を同じ内容で指導
 - ①複数学年に、同じ教科の同じ領域(分野)の教材を、それぞれの学年目標の達成を旨として並行して指導する。**(異内容・異程度)(一本案)**
 - ②複数学年(二学年)の指導内容を、A・B年度に分けて単元構成し、複数学年に、同単元同内容の指導をする。**(同内容・同程度)(二本案)**

複式学級における指導では、これらの指導方式のうちいずれが適切であるかを見極めることが大切になる。地域・学校・子どもの実態、教科や特別活動の指導およびその関連等を考慮して、どの

方式をとるかを判断しなければならない。また、学年別指導や同単元指導(異内容・異程度)の一本案による複式指導、いわゆる典型的な複式形態の指導では、直接指導・間接指導という「わたり」のある指導となる。この形態による指導の場合、次のことが課題として指摘される。

- ・学年ごとの課題把握(導入)や習熟・発展・整理(まとめ)の段階の指導に十分な時間がとれない。
- ・直接指導と間接指導の組み合わせや「わたり」の指導が複雑になり、直接指導の時間が半減し、指導力が断片的に分割される。
- ・教材研究の時間が不足し、資料や教具の準備などに時間がかかり、教師の負担が増加する。
- ・両学年の協力的な学習の場の設置が難しく、下学年の指導や多人数の学年の指導に偏りがちになる。
- ・調査や観察、実験や実習を伴う学習活動を行う場合には、特に工夫が必要となる。

よって、これらの課題を改善する工夫や、「同単元同内容」による指導の工夫が望まれる。

2 「同単元・同内容指導(二本案)」による学習指導計画作成の留意点

「同単元・同内容指導(二本案)」による利点として、次の点が上げられる。

- ・上下両学年に、同時に同内容の学習を指導するので、学習のうえからは単式的な指導ができることになり、能力差に応じた指導をする時間を生み出すことができる。
- ・上下両学年の交流によって、話し合いの活発化が見込まれ、相互の刺激が強化されて問題解決のあり方や態度が育てられる。
- ・教材研究や資料・教具等の準備など、教師の負担が軽減されるとともに、学習の効率化を図ることができる。

しかし、次の点に留意する必要がある。

[内容の系統・発展性]

- ・どの学年から入っても、系統的で発展的な学習ができるように工夫する。
- ・指導時期が限られているもの以外は、下学年を各年度の前半に、上学年を後半に配列する。

[単元の分割と配分バランス]

- ・一つの単元を分割して細かい組み合わせを作るとは避ける。
- ・学習指導要領の目標や内容等をA・B年度にわたってバランスよく適切におさえ、学校や地域の特性を生かした単元配列をする。

[配当時数]

- ・ゆとりがあり、主体的な学習ができるように割りふる。
- ・他教科や他領域、総合的な学習の時間等との関連が図れるように割りふる。
- ・子どもの負担にならないように発達段階を考慮して割りふる。

[学年差や個人差]

- ・同時、同単元、同内容の学習であるため、学習目標や学習活動も原則として同じになるが、学年差や個人差に十分配慮して計画を立て、指導内容や方法を工夫する必要がある。

[変則複式や欠学年への対応]

- ・2年と3年、4年と5年のような変則複式や欠学年によるとび級が生じる場合など、年度別の

学級編成の見直しをもってA・B年度の指導計画を作成し、状況に応じて弾力的に指導を行うことができるようにする。

[転入生や転校生への配慮]

- ・転入や転出の子どもがいる場合は、未学習内容や重複して学習する場合があるので、十分な配慮が必要である。
- ・社会科は、学習指導要領では学年別に目標と内容が示されており、発達段階や学習内容の系統性からみて二本案には課題もあることから、異単元異内容指導による実践も多い。

(1) 特に中学年での留意点

- ・社会科が第3学年から始まることから、生活科との接続を両学年とも考慮する。
- ・地域や子どもの実態をふまえ、弾力的・系統的に地域学習を展開できるように工夫する。
- ・指導内容の厳選や事例の選択により、子どもの興味・関心に応じた指導を行う。
- ・地域や子どもの実態をふまえて、教科書や副読本、地域教材を有効に活用し、柔軟な指導を行うようにする。

(2) 特に高学年での留意点

- ・第5学年のわが国の農業や水産業については、季節性や適時性を考慮して単元配列をする。
- ・第6学年の歴史学習は、網羅的な学習にならないように、人物のはたらきや代表的な文化遺産を中心に学習内容を精選する。
- ・第6学年の学習内容を第5学年で学習する場合には、教科書や資料等の未習の語句の読みや意味に配慮する。

【参考】「複式学級の場合の教育課程編成の特例」(総則第1章第2の5)
 5 学校において2以上の学年の児童で編成する学級について特に必要がある場合には、各教科、道徳、外国語活動及び特別活動の目標の達成に支障のない範囲内で、各教科、道徳、外国語活動及び特別活動の目標及び内容について学年別の順序によらないことができる。

【3・4年生】(単元配分型)

A年度	84時間
1 わたしたちのまちと市(17)	3
◇オリエンテーション	①
1 まちの様子	⑥
2 市の様子	⑩
2 わたしたちの市の歩み(16)	3
◇オリエンテーション	①
1 かわる道具とくらし	⑥
2 市のうつりかわり	⑨
広げよう、市から県へ(1)	4
みりょくがいっぱい! 知りたいな、47都道府県(1)	4
3 県の地図を広げて(7)	4
4 地域で受けつがれてきたもの(10)	4
◇オリエンテーション	①
地域で受けつがれてきたもの	⑨
5 昔から今へと続くまちづくり(13)	4
◇オリエンテーション	①
昔から今へと続くまちづくり	⑫
6 わたしたちの県のまちづくり(19)	4
◇オリエンテーション	①
1 焼き物を生かしたまちづくり	⑤
2 昔のよさを未来に伝えるまちづくり (自然を生かしたまちづくり)	⑥
3 国際交流がさかんなまちづくり	⑤
自分たちの県を外国の人にしょうかいしよう	②

〔特色と指導上の留意点〕

・学習指導要領では、社会科の標準時数は、第3学年で70時間、第4学年で90時間である。両学年には20時間の差があるため、指導計画の作成にあたっては、他教科との関連を図るなど、学校の実態に即した時数の調整が求められる。

・A年度は、「身近な地域や市」の学習の後に「県」の学習を進めることができよう構成している。また、B年度は、「地域の安全を守る働き」の学習の後に、「自然災害から人々を守る活動」の学習を構成した。内容での関連性を考慮してのことである。A年度は、地理的認識や歴史的認識など

B年度	76時間
1 はたらく人とわたしたちのくらし(19)	3
◇オリエンテーション	①
1 店ではたらく人と仕事	⑩
2 工場ではたらく人と仕事(農家の仕事)	⑧
2 健康なくらしとまちづくり(29)	4
◇オリエンテーション	①
1 ごみはどこへ	⑭
2 水はどこから	⑬
ごみと水について学んだことを、 くらしに役立てよう	①
3 地いきの安全を守る(18)	3
◇オリエンテーション	①
1 火事からまちを守る	⑨
2 事故や事件からまちを守る	⑧
4 自然災害にそなえるまちづくり(10)	4
◇オリエンテーション	①
地震にそなえるまちづくり (水害にそなえるまちづくり)	⑨

の学習の系統性を重視し、B年度は、社会システムの認識を重視した構成としている。

・A年度、B年度とも第1単元は第3学年にとって社会科と初めて出会う単元である。よって、生活科との内容的・方法的な接続を十分に考慮し、探検活動や調査活動等を取り入れながら、自分との関わりを重視した学習活動を工夫する必要がある。

・A年度、B年度の年間授業時数は、教科書準拠の想定配当時数をそのまま充てたため、長期休業前後の単元の分割や標準的な配当時数を調整するなどの工夫が必要である。

【5・6年生】単元固定型

A年度	100時間
1 日本の国土とわたしたちのくらし	〈20〉
◇オリエンテーション	①
1 世界の中の日本の国土	⑤
2 国土の気候と地形	④
3 自然条件と人々のくらし	⑩
2 未来を支える食料生産	〈26〉
◇オリエンテーション	②
1 米づくりのさかんな地域	⑪
2 水産業のさかんな地域	⑧
3 これからの食料生産	⑤
3 未来をつくり出す工業生産	〈23〉
◇オリエンテーション	①
1 自動車の生産にはげむ人々	⑨
2 日本の工業生産と貿易・運輸	⑤
3 日本の工業生産の今と未来	⑧
4 未来とつながる情報	〈13〉
◇オリエンテーション	①
1 情報を伝える人々とわたしたち	⑥
2 くらしと産業を変える情報通信技術	⑥
5 国土の自然とともに生きる	〈18〉
◇オリエンテーション	①
1 自然災害とともに生きる	⑥
2 森林とともに生きる	⑥
3 環境とともに守る	⑤

〔特色と指導上の留意点〕

・学習指導要領では5・6年生の指導目標と内容が別々に示されていることから、単元配分型の二本案では、発達段階や系統性への対応が問題になる。特に、歴史学習は分割することによって系統性、順序性が失われることから学年固定の二本案が考えられる。

・学年固定の二本案は、B案で授業を展開する場合、下学年の発達段階に考慮し、オリエンテーションの工夫や、教科書・資料の語句の読みや意味の理解に対して配慮するなどの工夫が必要である。単元の始めが憲法や政治といった、イメージしに

B年度	105時間
1 ともに生きる暮らしと政治	〈21〉
◇オリエンテーション	①
1 憲法とわたしたちの暮らし	⑪
2 わたしたちの暮らしを支える政治	⑨
2 日本の歴史	〈69〉
◇オリエンテーション	①
1 国づくりへの歩み	⑦
2 大陸に学んだ国づくり	⑦
3 武士の政治が始まる	④
4 室町文化と力をつける人々	④
5 全国統一への動き	⑤
6 幕府の政治と人々の暮らし	⑤
7 新しい文化と学問	⑥
8 明治の新しい国づくり	⑥
9 近代国家をみざして	⑨
10 戦争と人々の暮らし	⑦
11 平和で豊かな暮らしをみざして	⑥
歴史を学ぶ意味を考え、未来につなげよう	②
3 世界の中の日本	〈15〉
◇オリエンテーション	①
1 日本とつながりの深い国々	⑤
2 地球規模の課題の解決と国際協力	⑨

くい事柄を扱う内容であるため、児童の身近なところから資料を準備したり、動画や映像等を活用したりして理解を補う必要がある。

・本案は、教科書の時数配分を基に作成している。標準時数が学年によって異なるため、実態に応じて軽重をつけるなどの工夫が必要となる。